

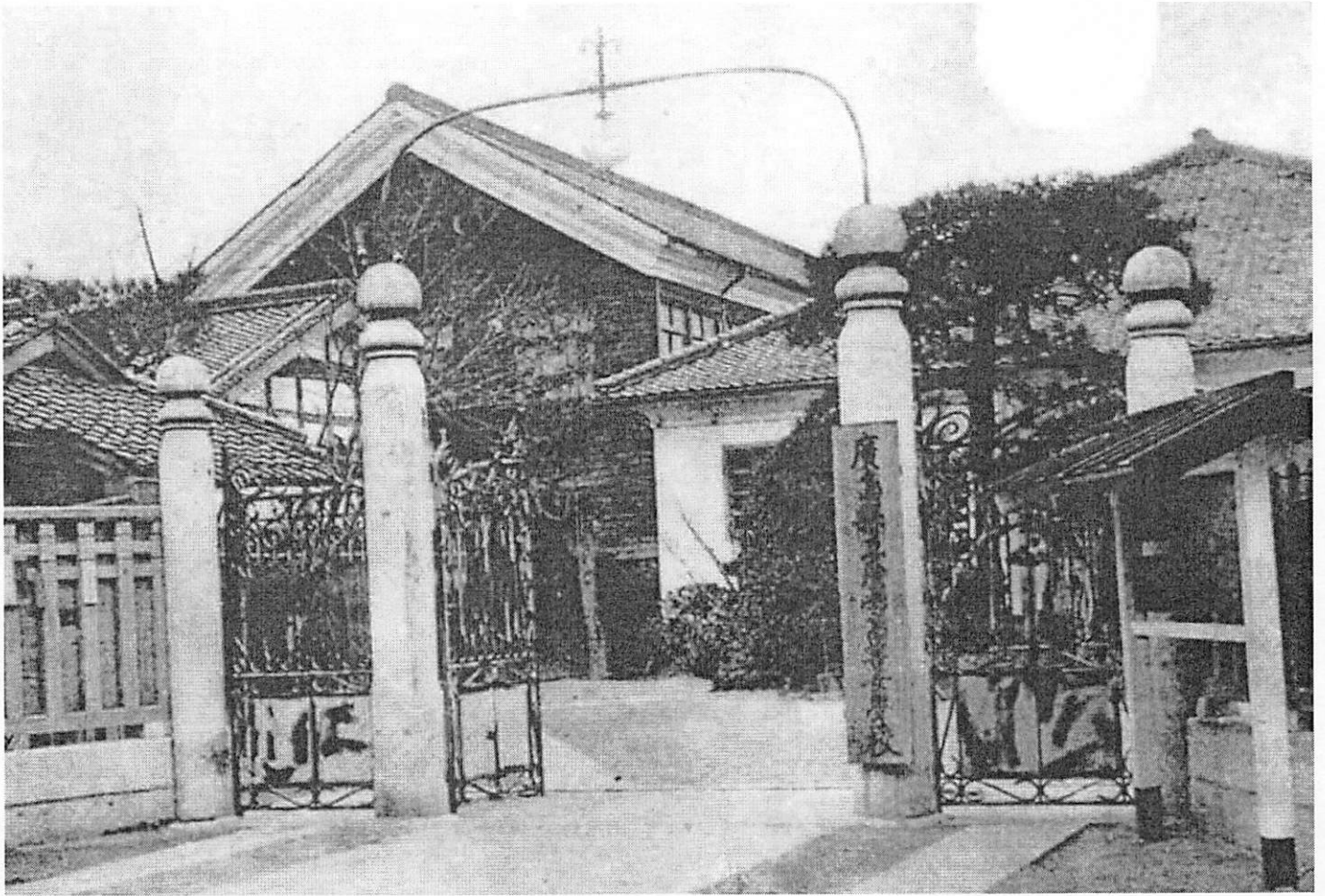
第 63 回 パネル展示資料

# 県女の門柱の歴史

2016 年

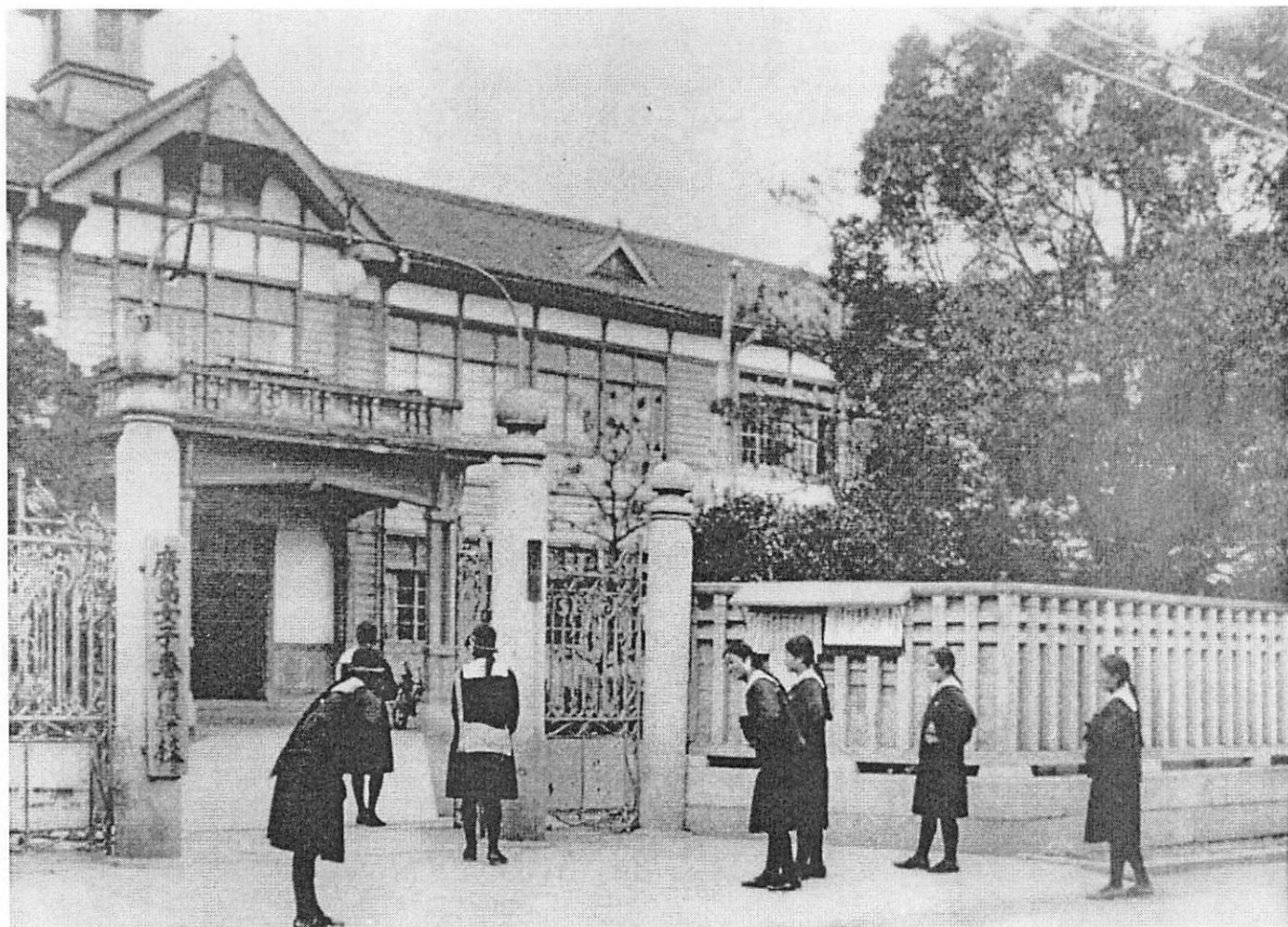
県女の門柱は110年余の間、県女の象徴として多くの生徒・同窓生に愛されてきた。門柱の歴史を振り返ることはその重要性を再確認するうえで大変意義のあることと思われる。

# 1. 創立当時の門柱



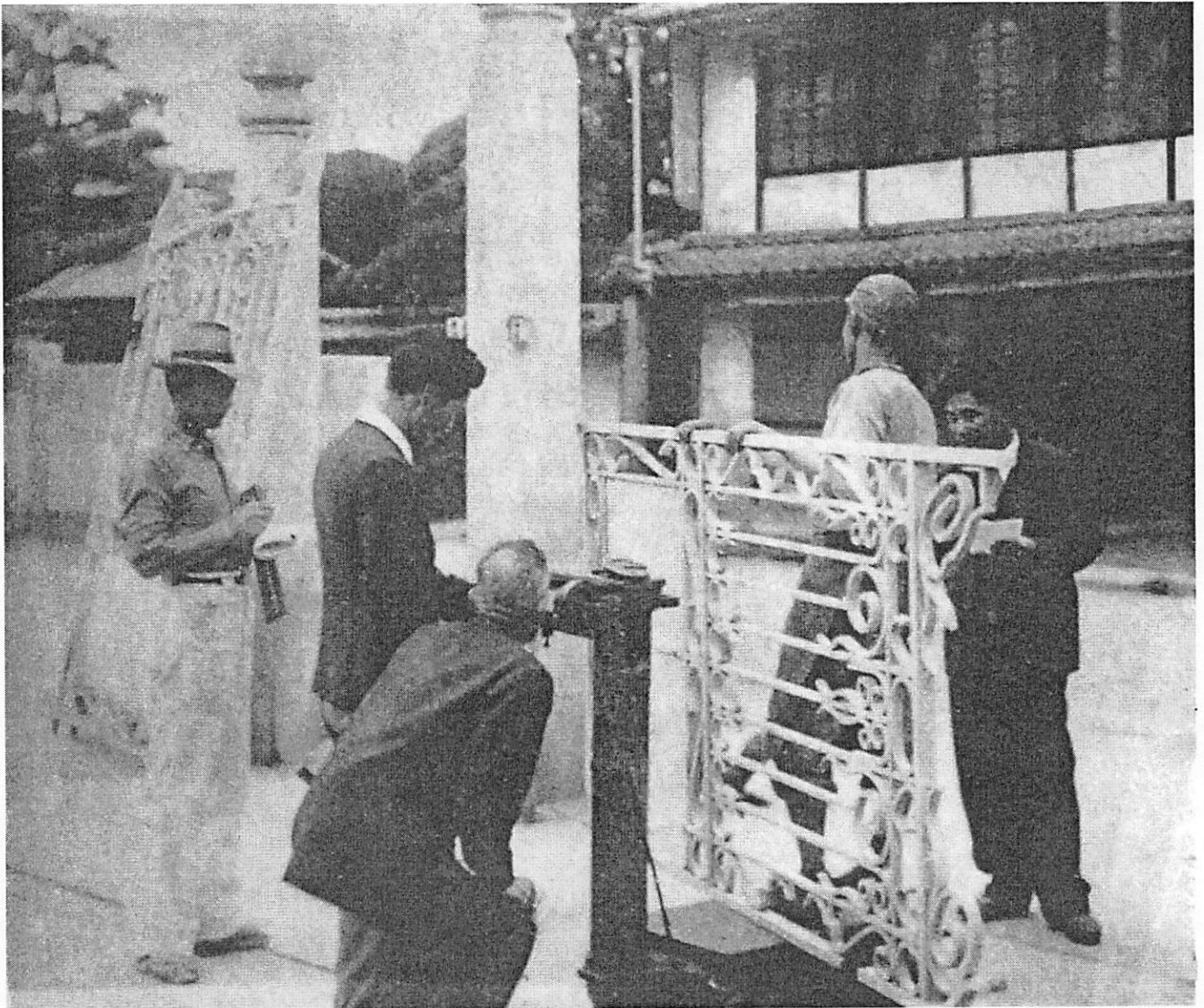
広島県立広島高等女学校は、広島県立中学校から広島県師範学校に引き継がれた下中町の校地に、明治34年12月創立。4本の門柱も同じく引き継がれた。門柱の1本に「明治10年寄附広島英語…」と刻まれている。

## 2. 昭和3年頃の門柱



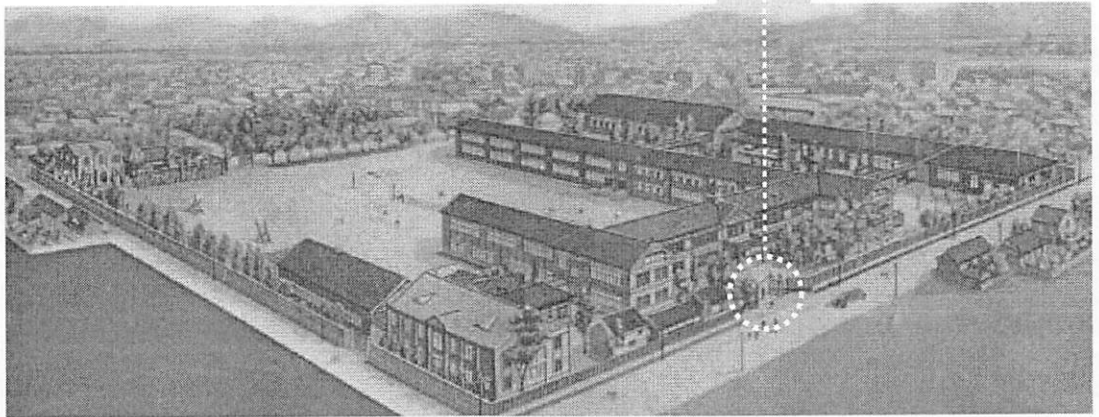
左の門柱に「広島女子専門学校」とある。昭和3年本校の専攻科が昇格し、県立女子専門学校となった。昭和10年本校敷地内から宇品に移転した。後に広島女子短期大学、広島女子大学、男女共学の広島県立大学となる。

### 3. 供出される校門の門扉



戦局は次第に悪化し、昭和16年兵器の材料とするために「金属類回収令」が公布された。本校の鉄製の門扉も供出され、その後には木製の扉が取り付けられた。

## 4. 被爆後残った4本の門柱



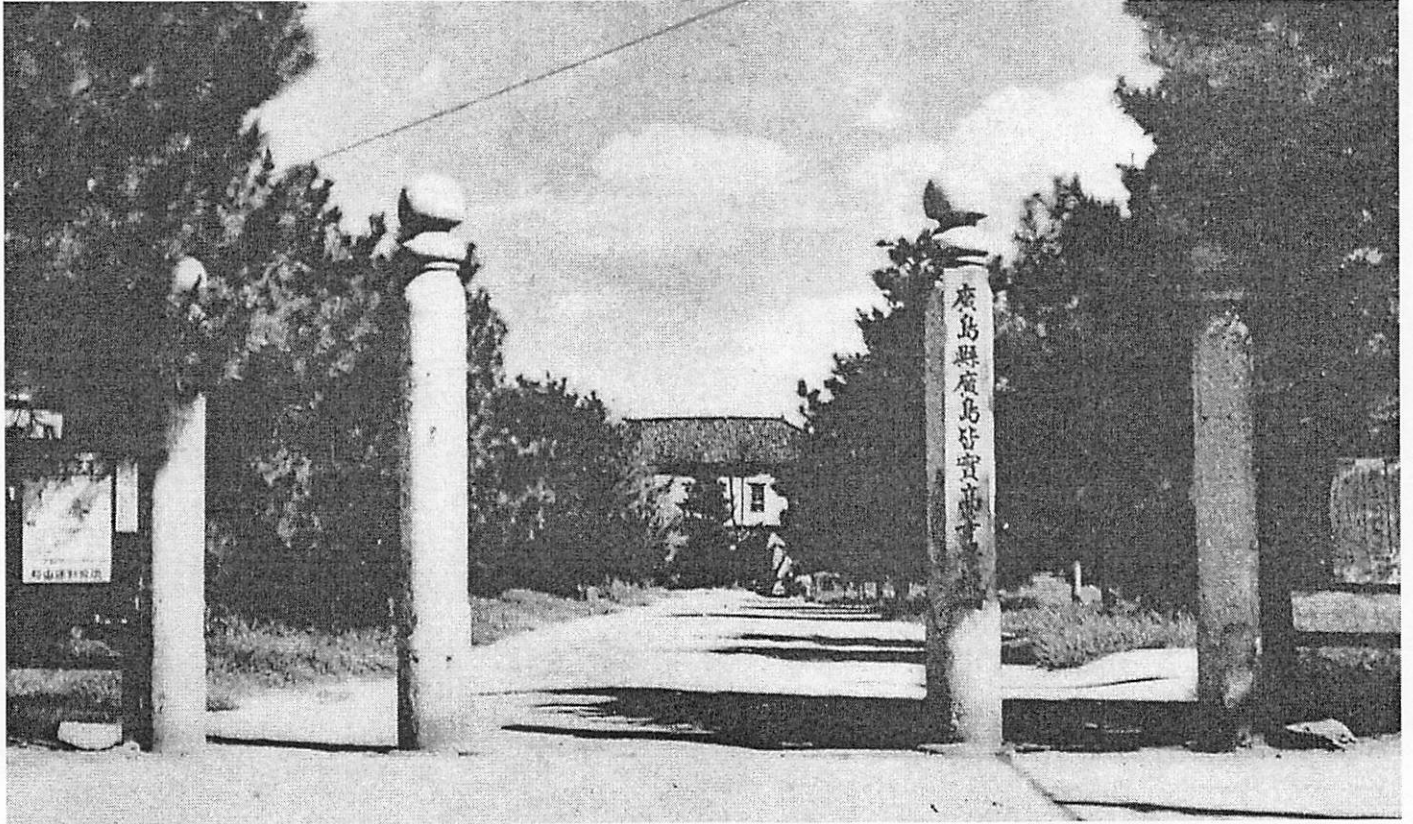
昭和20年8月6日原爆投下により、爆心地から600mの地にあった県女の学校施設は焼失し、4本の門柱（写真右上）は残った。（昭和20年秋 岸本吉太氏撮影）

## 5. 被服廠跡に移設された門柱

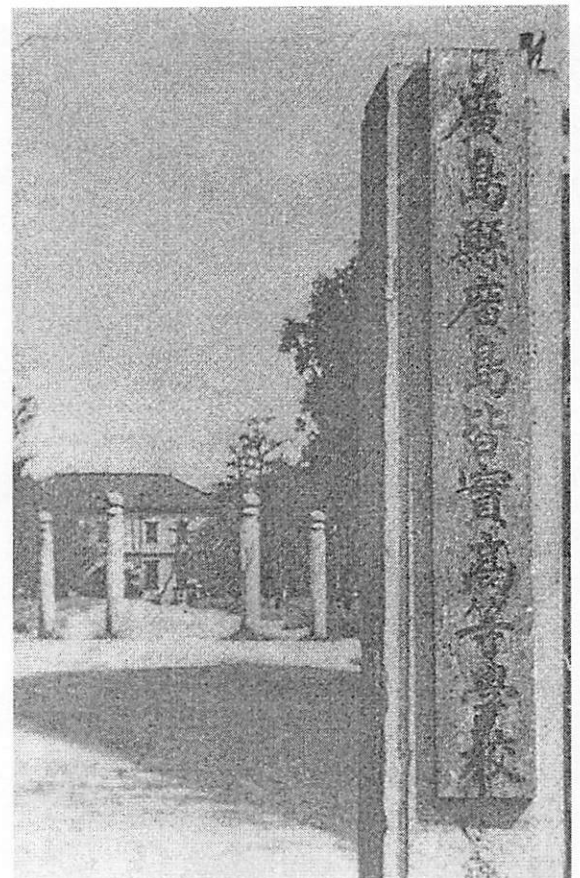


都市復興計画に伴い昭和21年被服廠跡に校地が移転。旧被服廠正門に広島県立広島第一高等女学校の門標が掲げられた。4本の門柱も移設された。昭和23年の学制改革により、第一県女は広島県立広島有朋高等学校となった。

## 6. 皆実高校に引き継がれた門柱



昭和24年、高校再編成により有朋高校は「小学区制・総合制・男女共学」の広島県立広島皆実高等学校となった。4本の門柱も引き継がれた。

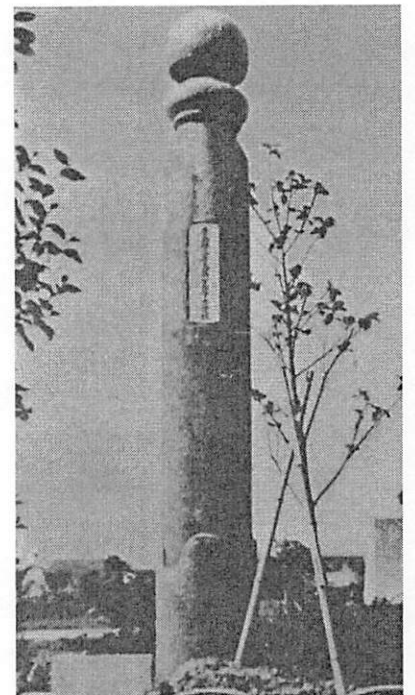




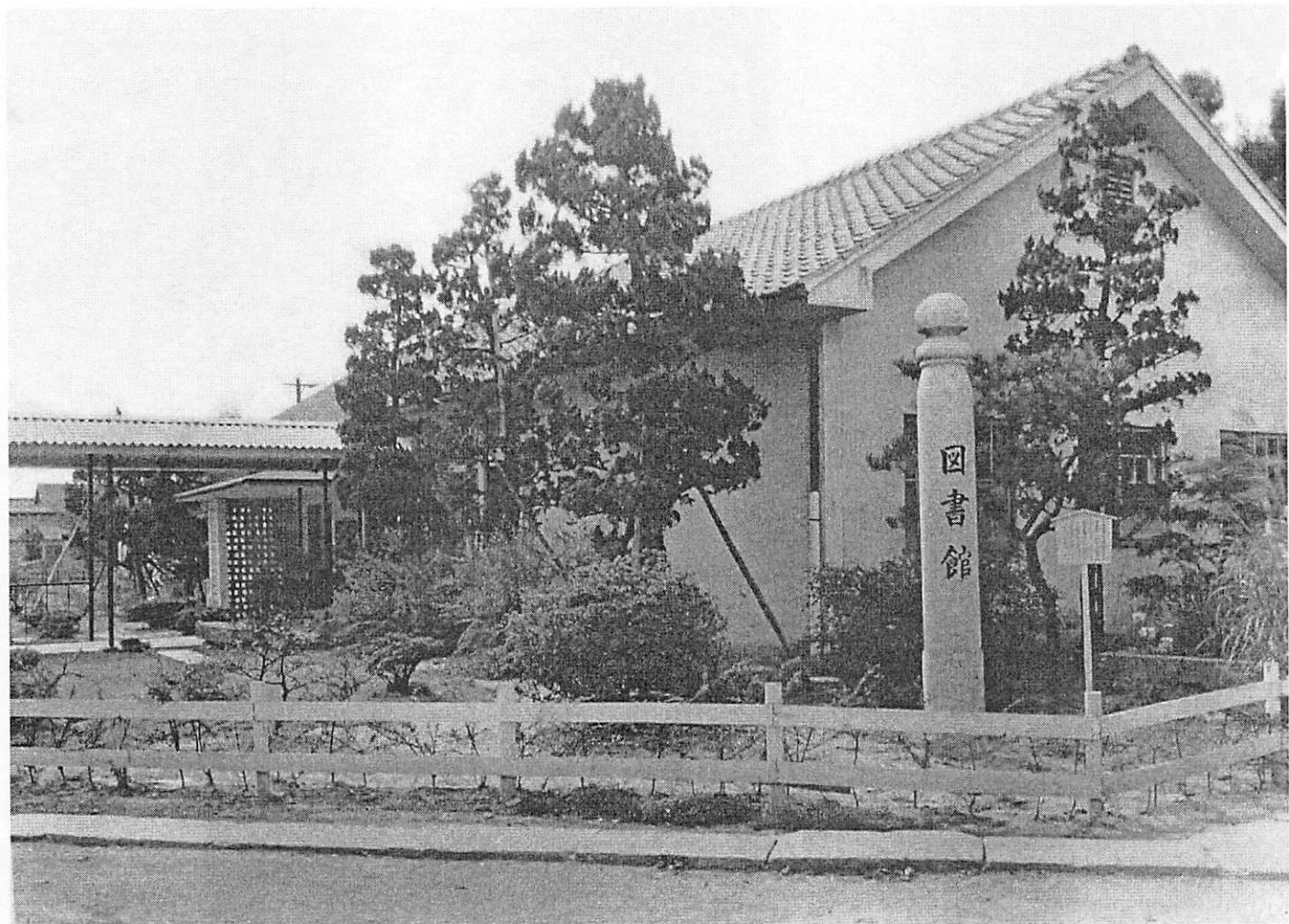
## 7. 「追憶之碑」のそばに門柱移設



昭和 30 年広島第一県女の正門跡に原爆犠牲者「追憶之碑」が建立された。校名が刻まれた大理石製の門標が内柱の 1 本に取り付けられ、碑の後方に移設された。

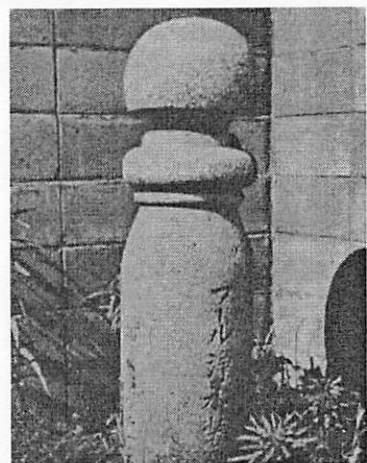
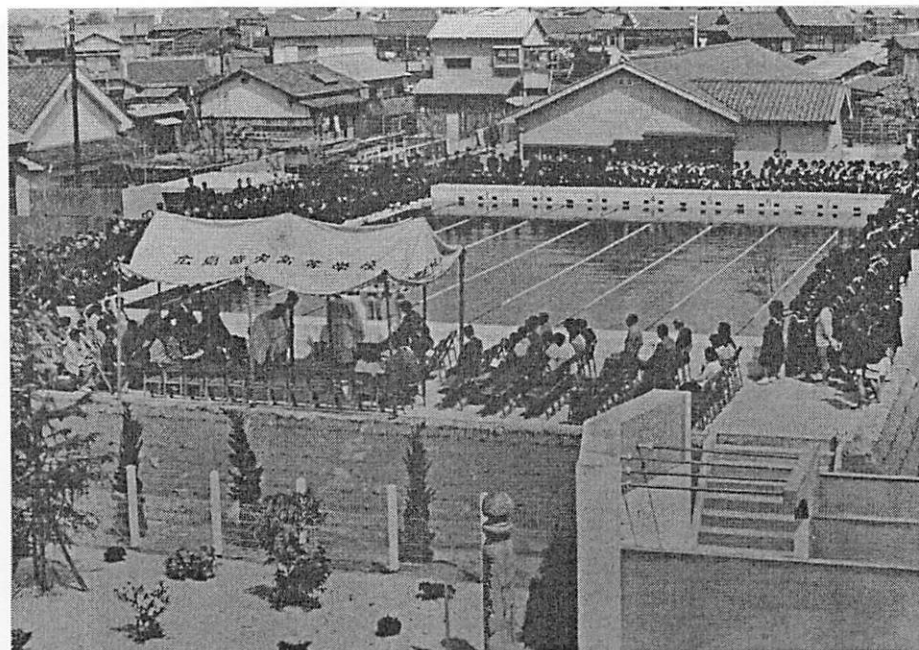


## 8. 図書館に移設された門柱



昭和31年9月柔道場と音楽室の間の壁を取り、図書館が完成した。外柱の1本が図書館の記念石柱碑となった。

## 9. 皆実有朋プールに移設された門柱



もう1本の内柱は昭和36年同窓会寄贈の皆実有朋プール記念石柱碑になった。残りの折れた外柱は上半分が皆実高校PTA寄贈のプール浄化装置記念石柱碑となった。

## 10. 「いこいの森」の3本の門柱



学校施設の新・増設工事に伴い、校内の3本の門柱は、昭和49年玄関前に完成した校内庭園「いこいの森」に移設された。「いこいの森」は創立110周年の記念に同窓会により「憩いの森」として再整備された。

## 11. 「追憶之碑」 前方に移された門柱



平成 27 年「追憶之碑」が改修再整備された。  
碑の後方にあった門柱は前方に移設された。

被爆から70年以上経ち、被爆建物は次々と消滅し原爆の記憶の風化が懸念される。県女の門柱は「被爆の証人」として、社会的にも文化的にも重要な被爆資料である。誕生から110年余の時を経た県女の門柱は花崗岩製でもあり、被爆や度重なる移設などで、経年劣化も進んでいる。しかし、歴史の証人として、これからもその姿を保ち続けることが望まれる